

# 同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

6

Vol. 787 June 2023

Shinran  
500th

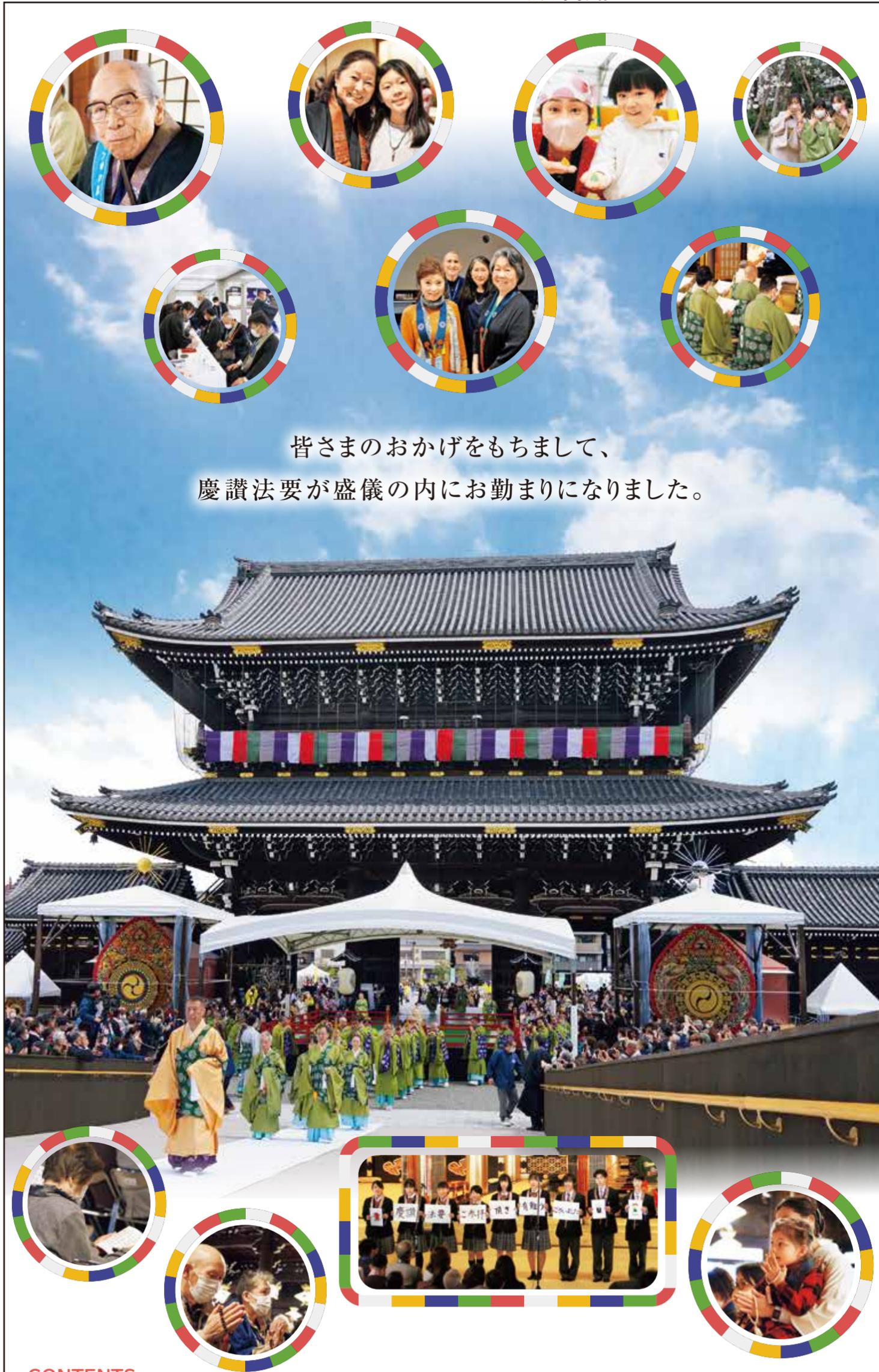
南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう



慶讃特設サイト

検索

発行所  
真宗大谷派宗務所  
代表者 木越 渉  
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)  
購読料 無料  
送料 1部1カ年1,300円(部数により変動)  
振替口座番号 01000-6-27404  
加入者名 東本願寺出版部



皆さまのおかげをもちまして、  
慶讃法要が盛儀の内にお勤まりになりました。

## CONTENTS

2・3面

【慶讃法要法話抄録】

<第1期:4月8日>

小川一乗氏 延塚知道氏



6~9面

特集

宗祖親鸞聖人

御誕生八百五十年

立教開宗八百年慶讃法要



11面

子どものつどい開催を  
記念して打敷が採納

「真宗本廟(東本願寺)  
彫刻ガイドマップ」発行

ほか



4面

現在を生きる

御同朋・御同行からの問いかけ

～是施陀羅の課題～ 第19回  
【最終回】

5面

親鸞聖人にであう

第11回

10面

聞 今月の法話 第32回

本日、四月八日は、釈尊が誕生された日です。釈尊はお生まれになった時、七歩あゆまれ、天と地を指さして、「天上天下唯我独尊(ただわれ独り尊し)」と仰つたと伝えられています。このことについて、「仏説無量寿経」では、「吾當於世、為無上尊」(『真宗聖典』二二頁)と説かれています。

釈尊は生まれてすぐ、七歩あゆまれました。それは、六歩を超えたということ、すなわち地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人・天という六道(迷いの世界)を超えて覚りの世界に立たれたということの意味します。そして、「天上天下唯我独尊」と宣言された。

この誕生偈には仏教の最も基本的な教えが込められていると思います。それは、「生かされるいのち尊し」と、ただ今この瞬間のいのちに対する深い感動を持って生きる者となる。それは数え切れないほどの縁の中でただ今生かされている。釈尊は、そういうのちの事実への自覚を「唯我独尊(為無上尊)」と表明されたのです。

# 生八百五十年・讃法要

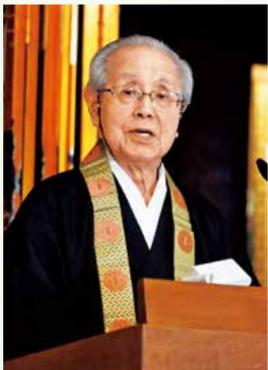
## 2023年4月8日 宗祖親鸞聖人御誕生 立教開宗八百年慶 (第1期結願)法話

三月二十五日から始まった宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要は、四月八日に第一期の結願を迎えました。今号では、阿弥

陀堂、御影堂で話された法話の抄録を掲載します。

# 生かされるいのち尊し

小川一乗氏(真宗大谷派講師、北海道教区西照寺)於：御影堂



その縁の中で、ただ今、ここにお座りになつておられるのではないのでしょうか。『仏説阿彌陀経』に「青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光」(『真宗聖典』二二六頁)と説かれています。私たちのいのちは、青い色は青く光り、黄色い色は黄色く光り、赤い色は赤く光り、白い色は白く光る。それぞれの色は、比べることができない色として、今、光り輝いている。百人いれば、百種類の色として、それぞれ輝いて光っている。そういう一つひとつのいのちを私たちは生かされているのです。比べることができないいのちを、縁のままに今こうして生きている。そのことに深い感動を持って、「唯我独尊」として生きる者となれ。これが釈尊の教えの基本です。

ただ、私たちはなかなかそうはなれません。今日よりも明日へと、明日に夢を持って生きようとしてしまいます。しかし、明日はないのです。明日になってみないとわからないのです。私を私たらしめているすべてが縁によつて「唯我独尊」として生き、その縁が尽きればお浄土へと往生させていただく。

そう私たちに教えてくださっているのが釈尊です。そのお覚りの智慧を、阿彌陀如来は「本願」としてお示しくださった。そのことに深い感動を持って生かされたのが、親鸞聖人ではないでしょうか。

親鸞聖人は、生かされているいのちを生きながら、思いどおりに生きようとする自分の身を、「不浄造悪の身」とおっしゃいました。常に釈尊のお覚りに背き、自分の思いどおりに生きようとする自我、我執から解放されずに生きていることを深く深く悲しまれました。

『歎異抄』の中に「なごりおしくおもえども、娑婆の縁づきて、ちからなくしておわる」ときに、かの土へはまいるべきなり(『真宗聖典』六三〇頁)とおっしゃっています。娑婆の縁によつて私たちはここに生かされていますが、もっとこの世にしがみついていたくて名残惜しく思つても、私を私たらしめてくださっている縁が尽き果てたならば、お浄土へと往生させていただくのである。そのように阿彌陀如来の本願を通して親鸞聖人は釈尊の教えに出遇われたのです。

このことについて、『高僧和讃』の中の善導大師をたたえる「和讃の最後に、親鸞聖人は次のようにうたつておられます。弘誓のちからをかぶらずは、いずれのときにか娑婆をいでん、いづれのかかおもいつつ、つねに弥陀を念すべし

# 光り輝く仏さまの世界に帰る

延塚知道氏(真宗大谷派講師、九州教区昭光寺)於：阿彌陀堂



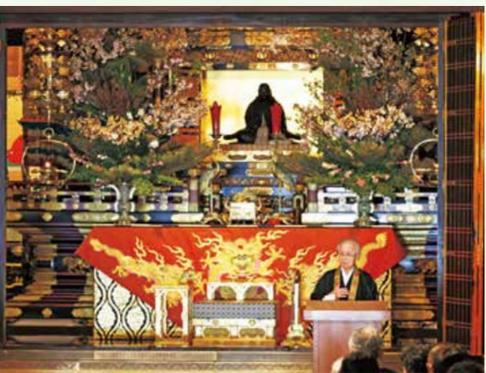
またたきに大切な意味があるのです。しかし、私たちは大切な教えに遇い、お念仏の教えに生きたいと決心しても、自分の欲に突き動かされて生きる他はありません。『大経』には、私たちの念仏生活が説かれている箇所があります。「三毒五悪段」(善悪段)と呼ばれるところで、三毒とは、貪欲、瞋恚、愚痴の煩惱のことです。貪欲は、物に執着する心です。財産がなければそれを憂う。反対に財産があつても、いつかなくなるのではと苦しむ。また、どんなに愛し合っている家族でも、最後には別れなければならぬ苦しみ(愛別離苦)、そのほか生活の中の苦しみ(愛別離苦)、その実に詳しく説かれています。

瞋恚とは、腹を立てることです。幼いころの記憶は四歳くらいからだと思いますが、それまでは自我はないので、「私」も「他人」もない。一如の世界です。ですから人はみな、仏さまの世界に生まれてきたのです。ところが四歳くらいで、私がという自我が生まれた途端に仏さまの世界を忘れて、「私」が中心にする世界に逆転します。それだけが

正しいと思ひ込んで、思いに反すれば腹を立てます。人間は仏さまの世界を忘れて真理を知らないから、自分の育った環境が物差しになります。生まれた場所が違うだけで争いの元になり、時には殺し合いにまでなっていくのです。

「ただ今この瞬間のいのちに対する深い感動を持って生きよ」という釈尊の教えがあつたからこそ、阿彌陀如来の本願は、その教えを私たちの心に伝えてくださっている。その釈尊の恩を深く思いながら、お念仏申すべしとおっしゃっています。

釈尊が誕生され、その教えが仏教として人類のものとなったからこそ、私たちが阿彌陀如来の本願に遇うことができるのです。その釈尊の恩を深く思いながら、私たちはお念仏を申すべきである。このように



親鸞聖人は善導大師をたたえる中でおっしゃっています。私たちはこの世に生を受け、そして、一瞬、一瞬のいのちに感動を持って生かされてもらい、その縁が尽き果てたらお浄土へと往生させていただくのです。明日往生するかもしれない身である私が、ただ今こうして皆さんとお会いしていることは、どんなにすごい出来事でありましょうか。ただ今に感動を持つ。「生かされるいのち尊し」と、いのちに対して手を合わせ、自然と口から出てくるのが「南無阿彌陀仏」というお念仏なのでしょう。そこに親鸞聖人の教えの基本があるのではないかと思います。私たちはそれぞれの色で「オンリーワン」として生きています。「ナンバーワン」ではありません。オンリーワンとしてそれぞれのいのちを生かされ生きているのです。比べることができない、誰にも代わってもらえないことのない、誰にでも代わってもらえない「唯我独尊(為無上尊)」とは、釈尊が自分だけが尊いと言われたのではなく、生きとし生ける者すべてが一人ひとり尊いという意味を示されたものと思います。

数え切れないほどの縁が今、ただ今の私となつてくださっている。何か一つ縁が欠けてもここにすることはできない。それなのに今ここにいないではないか。そのことに深い感動をもって生きよという「本願をいただいて生かされてもらう。親鸞聖人はそういう釈尊によるいのちへの自覚を阿彌陀如来の本願を通していただかれたのでありましょう。

貪欲では、「少欲知足(欲を少なくして、足りることを知りなさい)」と説かれます。瞋恚では、「和顔愛語(和やかな顔をして、優しい言葉をかけあって生きていきなさい)」と説かれます。愚痴は如来の智慧でしか見抜けないので、「恭敬三宝(称名念仏)」が説かれます。ですから、この三つが念仏生活の生活規範になります。今日から、この三つを守って生きていきましょう。

さて、あなたが先にいのち終わるかわかりません。親鸞聖人は、「この娑婆は名残惜しい。けれども、いのちを終れば、かの土へはまいるべきなり」といわれます。お互いに死の前に立てば、少々勉強したことなど吹っ飛んで、ただ一人の凡夫に戻り「死ぬのは嫌だ」と言をたいて、泣くほかはないのです。しかし一方では、病気の苦しさ、痛さという肉体から解放されて、仏さまの大きないのちの世界に帰っていく。自我からも解放されて、本心に自由な光り輝く智慧海に帰っていく。死の前に立てば、煩惱の身に泣き、晴れ晴れと仏さまの世界を仰ぐほかはない。そこに人間のぎりぎりの救いがあるのです。宗祖の教えに遇えてよかった。いのち終わっていくことが、暗く苦しい、悲しいだけではなくて、必ず明るい仏さまの世界に帰っていくのだ。そういう大きな教えをいただいたことが、どんなにありがたいことかと思ひます。

### 通信員リレーレポート Vol.237

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

「そのことがきつかけで、お寺に足を運ぶ機会が自然と増え、初代住職とたくさん話すようになった。そこから関係性が深まっていったように思う。また、2代目の坊守さんの必死にがんばっている姿を見て、自分も西光寺の役に立つことをしたい、西光寺を盛り上げたいと思った」と。後に、初代住職から「この西光寺を頼む」と言われ、定年退職を機に総代の就任を決められた。総代就任の間、2代目住職と共に組門徒会などにも行き、さまざま



梅子さんが手縫いした襦袢

九州教区通信員  
本田 智子

ものだとあらためて感じる取材となった。

## 現在を生きる



石松敏弘さん・梅子さん

### 共に歩み育む

九州教区 福岡組 西光寺門徒

石松 敏弘さん (89歳)

梅子さん (83歳)

石松さんご夫妻は、ご縁があり西光寺総代を28年間続けられた。今でも73年前に開基された西光寺の初代住職から現住職まで3

代に渡ってご縁が続く。

「お寺がどういところかわからなまま足を運んだ日のことを思い出すなあ」と語るの、石松敏弘さん。「当時、初代住職の話を聞いてみると、自分の心の中を見透かされているようで不思議と清々しい気持ちになった」と振り返る。

まな寺院の総代と顔を合わせての交流ができたことは、とても楽しかった」と目を輝かせて語ってくれた。

そんな敏弘さんと共に、ご門徒同士のご縁をつなぐ架け橋となっているのが妻の梅子さん。周りから「梅ちゃん」と呼ばれ、親しまれている。

「他人に話せないような話も、よく前坊守に聞いてもらっていました。私にとつてお寺は、どんな問題も受けとめてくれる救われる場所です。前坊守と共に西光寺を楽しく心が解け合う場所にしたと思う、旅行や食事会などの交流の場を企画して、たくさんのご門徒と出かけたことは良い思い出です」と梅子さんは懐かしむように語った。

また、住職が着用する襦袢は梅子さんが手縫いしたもの。梅子さんは「私のできることはこれくらいだから」と、晒を使って歴代住職の体型に合わせた襦袢を縫ってきた。その襦袢は本当に着心地が良いと住職にも評判だ。

現在3代目世代となる西光寺にも、新たに石松夫妻のような熱心なご門徒とのつながりが生まれつつある。「お寺」とは、ご門徒と共に歩み育んでいく

## 御同朋 御同行

からの問いかけ

～是旃陀羅の課題～

第19回

【最終回】

### 真宗の未来

本欄では、『仏説観無量寿経』の「是旃陀羅」の語がもつ差別性に対して、その問題性はどこにあるのか、私たちはどう応答していくのかを問うていくことを目的に、さまざまな視点からたずねてきました。

1962年に始まった同朋会運動は、『現代の聖典―観無量寿経序分―』をテキストとし、經典の内容をわかりやすく伝えるために、漢字仮名交じりの延べ書きにして門徒に手渡してきました。その中に出てくる「是旃陀羅」について、これまで僧侶・門徒とともに考えてこなかった責任を今こそ果たすべき時なのです。「是旃陀羅」の課題とは、まさに同朋会運動を再生することであり、そのことが、御同朋・御同行からの問いかけへの確かな応答となっていくのだと思います。

て、旃陀羅(チャンダラ)に対する差別、そして、部落差別を克服していく視座を、あらゆる教学・教化の歩みの中に位置づけていくことです。現実にある被差別者の痛みから、自分の中にある差別性を信仰の課題として受けとめていくことが願われているのです。

これまでも紹介してきましたが、最後にあらためて次の言葉を取りあげたいと思います。

「是旃陀羅」の解説部分は、被差別者にとつてはやりきれないほど、心に痛みを感じる(小森龍邦『親鸞思想に魅せられて』)

宗門では、この訴えから、読誦のことが大きな関心事となりました。「読まれると痛いというのだから読めない」という声がありましたが、「是旃陀羅」の課題を提起した人びとは、「同情」は求めていないのです。この場合から考える「読めない」という声は、「同情」の域を超えていないのではないかと思えます。しかしながら、このまま読み続けることは、この100年の間、課題を放置し続けてきたことと同じになってしまいます。

連載は終了しますが、引き続き皆さまと課題について考えていきたいと思えます。ご意見・ご感想はこちらまで。

解放運動推進本部  
TEL 075-371-9247  
E-mail kaihoh@higashihonganjii.or.jp

8月号より「縁 お寺の掲示板」を連載します。

宗祖親鸞聖人の生涯をつらぬく「うた」とは――

新刊 **和讃の響き**  
—親鸞の声を聞く—

親鸞聖人が、浄土真宗の教えを「うた」としてあらわした和讃。本書は、数ある和讃の中から24首を取り上げ、じっくり読み解くと同時に、和讃全体を貫く親鸞聖人の願いを明らかにします。

吉元 信暁 著 B6判 220頁 定価:1,210円(税込)

TEL:075-371-9189

ご注文 お問い合わせは 東本願寺出版 HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

東本願寺御用達

**日下念珠店**

〒600-8174  
京都市下京区烏丸通花屋町下ル  
電話 (075) 351-6325  
フリ-FAX 0120-89-5255  
定休日: 日曜日

皆様の平安

平安は三つの信念で精進しています

- ① 優良な商品を吟味し御調製
- ② 価格も出来る限り勉強
- ③ 親切と誠意あるサービス

法衣、打敷、幕、会旗、念珠、稚児貸衣裳  
御本山用達

**平安法衣店**

京都市下京区東本願寺大門前(〒600-8153)  
電話 京都(075)351-3681(代)  
FAX (075)351-5563



第11回

「深」

「この内に」

深く確かめる」

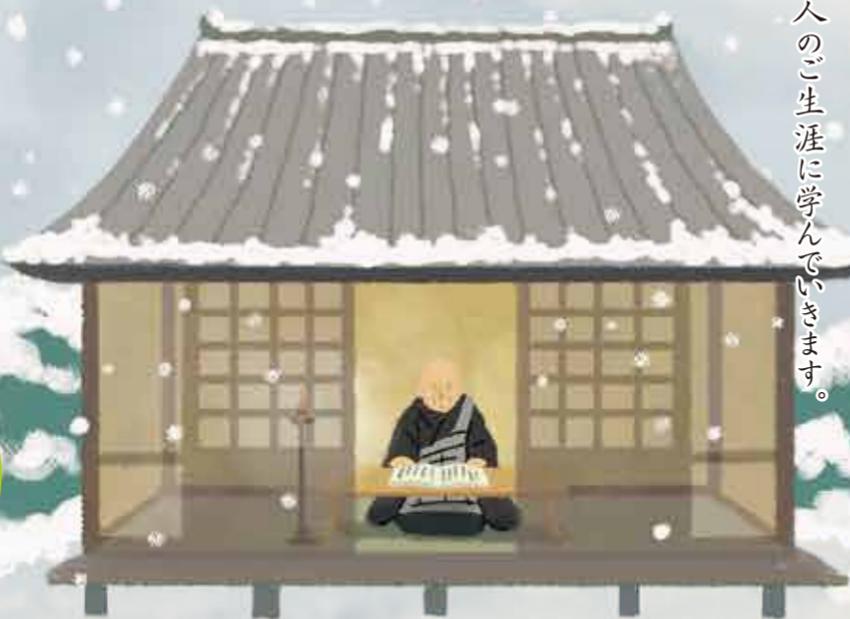
1207(承元元)年、35歳になった親鸞聖人は、流罪の地である越後の国府(現在の新潟県上越市)に着きました。国が認める僧侶としての資格を奪われ世俗の名を与えられたのですが、もはや自分は僧でもなければ俗でもない(非僧非俗)として、この頃から「愚禿釋親鸞」と名のられたとも言われています。

「愚」は自身の愚かさに立って生きる者であるという事を明らかにされたのでしょう。「禿」は髪をそり落とした頭のことですが、ある先生は、そり落とした後に少し生えてきている状態をも指し、そこから「僧でも俗でもない中途半端な存在」という意味でもあるとおっしゃいました。「釋」は、国の定める身分としては中途半端な存在でありながらも、お釈迦さまの弟子として教えに生きていくという表明なのでしょう。

都を追われたどり着いた地は、冬には日本海から冷たい風が吹きつけ大雪が舞い、夏には荒涼とした大地を強い日差しが照りつけるといった、おそろくは聖人の想像を超えるほどの厳しい環境だったことでしょう。そのような地で、今一度立ち止まって、法然上人からいただいた教えを自己の内に、深く深く確かめる日々を送られます。

# 親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。  
大谷中・高等学校「京都」で  
生徒とともに学ばれている乾さんと、  
中高生の素直(リアル)な問いを手がかりに、  
「人と生まれたことの意味」を  
親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄

京都教区近江第5組  
正念寺住職  
大谷中学・高等学校講師

「法 然さんの教えってどんなに やった？」

「他の修行はいらぬ。念仏だけ」

「あや、愚か者が救われる」

「すばらしい。覚えていてくれてうれしい。大事なことから、もう一度きちんと整理しよう」

法然さんが仏教に求められたのは、父の遺言である「すべての人が、共にたすけあつて生きる」とのできる道でした。45歳で善導さんの言葉に出会い、その道が阿彌陀という仏さまによって開かれていたことを知ります。それが浄土の教えです。その教えに依つて、本願を信じ念仏して浄土に生まれ行くものになろうと願われたのです。親鸞さんがその法然さんから聞いたのは「浄土の教えに生きる人は、自らの愚かさに立って救われていく」「(未燈抄)「真宗聖典」六〇三頁」という教えでした。「救われるのは誰か。それを法然さんは愚者と言ひ、親鸞さんは悪人と言ひ。決して学力や知識がない人を愚者と言つたのでもなければ、悪いことをする人を悪人と言つたのではないと思ふ」

「経験ない？ ちょっとグループで話し合おうか」

4、5人のグループを作つて5分ほど話してもらつたあと、A君が発表してくれました。

「小学校の時やけど、友達と家でゲームしてた。最初は楽しかったけど、何回やっても勝てなくなつてきて、しかも負けたら小ばかにされたので、切れてしまつてもう帰れと言つたことがある。次の日からなんかぎくしゃくして、それ以来遊ばなくなつた。無茶苦茶仲良かったのに」

「そうかあ。言いにくいことをよう言うてくれたな。みんなも知つてるように、A君はどちらかというところっちゃええやつやんか(笑)。みんな話聞いてびつくりしたんちゃう？」

「でもな、そういうことやねん。いい人やから他人を傷つけないとは限らないのよ。みんなにも、もちろん私も、なんであんなことしたんやろうって経験はあると思ふ。それでもさ、ひよつとしたら、自分は気をつければ次は大丈夫と思つてない？ あればたまたまであつて、もう二度と同じことはやらさないと思つてない？」

「敵しいようやけど、そう思つていゝうちは善人なんやろな。ほんでもつて救われ難いんやろつな。親鸞さんも、そんな救われたい自分を見つけたんやろつなあ」

「ところで、浄土ってなんやろ？」

親鸞聖人は、悪人であるからこそ浄土に生まれ行くことができるという教えを、自己の内に何度も何度も問いたずねていかれたことでしょう。その孤独な求道を続けるうちに、親鸞さんにとって大切な出あいが整います。それは近くで、その日を一生懸命に生活する人たちが、いなかの人がどこの出あいでした。

# 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要厳修

南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう



3月25日から4月29日まで、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が動きました。期間中、約10万人が参拝。全国各地そして海外からも多くの人びとが慶讃法要をご縁に真宗本廟に集いました。ともども法要に出あえた喜びを確かめ、両堂に「南無阿弥陀仏」の音が響きわたりました。第1期、第2期の結願法要での参拝者は大寝殿から両堂までを練り歩く庭儀によって行われました。法要への出仕者や宗派関係者をはじめ、全国から200人を超える稚児が参加しました。列は正午に大寝殿から大玄関を出発。水堀に沿って御影堂門に入り、両堂に入堂しました。4月8日の第1期結願法要では、雨の影響により途中から順路を変更。高廊下から両堂の縁を通り入堂しました。その後、慶讃テーマソングの披露、内局挨拶に続き、両堂において第1期は延塚知道氏(九州教区)と小川一乘氏(北海道教区)、第2期は本多弘之氏(東京教区)と池田勇諦氏(三重教区)の法話がありました。また、法要中と法要後に白洲の「舞楽台」にて第1期は名古屋楽舞会、第2期は金沢澄音会による舞楽が行われました。

慶讃法要を振り返る番組を東本願寺公式YouTubeチャンネルで公開しています。



### 参拝者の声

- 今日はあいにくの雨でしたが、雨だったからこそ、ほかにすることを気にかけずにゆっくり参拝できました。(岐阜県)
- お斎、とてもおいしかったです。普段は食が細くてなかなか食べられないのですが、皆さんと一緒に食べたからでしょうか、全部いただきました。お寺でもお斎の場を再開できればいい。(滋賀県)
- 昔、東本願寺のお堀などで遊んでいた時のことを懐かしく思い出しました。お東さん広場が今後いろんな形で活用されてほしいです。(京都市)
- 念願の慶讃法要にお参りすることができました。お誘いくださったご住職に感謝です。国立博物館での親鸞展も時間が足りないほどでした。(富山県)
- Beautiful! (It) made me cry. (阿弥陀堂がとても美しく涙が出ました) (海外)

### 帰敬式

各日の法要後は帰敬式が執行され、期間中1,523人が受式し、仏弟子ののりをあげました。4月20日の法要参拝後に北米開教区の一門徒9人も受式しました。イレーン・パーボットさんは親子で受式。イレーンさんは50年前の慶讃法要にお参りして、再び50年後、慶讃法要に来ました。今度は50年前に記念で頂いた念珠を持って、娘と一緒に。そして帰敬式を受けました。娘のヘザー・パーボットさんは「法名は死んでからではなく、生きているうちにいたく名前だよと母から聞いて、生きていく間に、母と2人でこの機会に一緒に受けました」と話しました。



### お東さん広場

3月25日にオープンした「お東さん広場」では、期間中の平日は日替わりでキッチンカーが登場。土日はマルシェも開催され、ベンチで食を楽しみながら休憩される方の姿も。また、ヨガやツリークライミングなどのイベントも開かれ、緑豊かで開放的な広場に多くの方が訪れていました。



### 同朋会館

同朋会館では法要期間中、法要参拝を中心とした「慶讃法要奉仕団」を開催。讃仰期間には宗祖の御旧跡(比叡山)を訪ねる「讃仰奉仕団」も開催され、あわせて33団体321人が参加しました。また、讃仰パネル展「親鸞聖人と家族の歩み」があり、カフェも併設。奉仕団参加者や法要参拝者がほっと息、交流の場にもなりました。



### 大谷祖廟

親鸞聖人の御廟所(墓所)である大谷祖廟では、職員による境内の案内のほか、パネルを設置し、大谷祖廟の歴史を説明。法要期間中は178団体4,906人が参拝。4月1日から8日は大谷祖廟花まつりが行われ、ぬり絵やスタンラリーもありました。



### 供茶・讃仰茶会

4月14日、慶讃法要讃仰行事として、「供茶」及び「讃仰茶会」が開かれました。本願寺第12代教上人が千利休と親交が厚かったことから、東本願寺は京都の茶湯の文化と深く関わってきました。御影堂において、茶道裏千家、千家、室家元の奉仕により供茶が行われ、御真影に濃茶、薄茶二種の茶をお供えされました。讃仰茶会は、桜下亭が濃茶席、白書院に薄茶席が設けられ、240人が参加しました。茶道裏千家今日庵、淡交会京都四支部学校茶道連絡協議会が席主を務め、宗派学校連合会加盟校茶道部員の学生・生徒の協力もありました。



### お買い物広場

多くの方が参拝に来られることから、常設に加え、鐘楼北側には臨時お買い物広場も設けられました。東本願寺発行の書籍をはじめ法要期間限定デザインのグッズも販売。上山の思い出にふるさとへお土産を買い求める方々にぎわいました。



### 涉成園

涉成園では、「EN+EN+GARDEN (エンエンガーデン)」と題し庭園のライトアップをはじめ、カフェやヨガなど、さまざまなイベントを開催。園内では4月9日から14日まで「月夜書屋」が開催され、あたたかな光の中、思い思いの本を読みながらくつろぐ人びとの姿が見られました。また、22日には金沢を中心に活動するコーラスユニット「VOX OF JOY」のコンサートが開催され、夕刻の涉成園に美しい歌声が響きました。



### 親鸞展―来館者は5万人に―

3月25日から京都国立博物館ではじまった「親鸞 生涯と名宝」は、開館から24日目の4月21日に来館者数が5万人に達しました。記念セレモニーでは松本伸之館長から5万人目の来館者となった梅溪里和さんと東京教区(間明寺坊守)へ、記念品の贈呈が行われました。法要に参拝し慶讃寄席を観覧後、博物館へ来場された梅溪さん、「以前、東京の展示で親鸞聖人の直筆の文字の気遣いを感じ、また見たいと思って来ました。思いがけないご縁をいただきました」と話しました。



# 憩いのひろば 子どものひろば



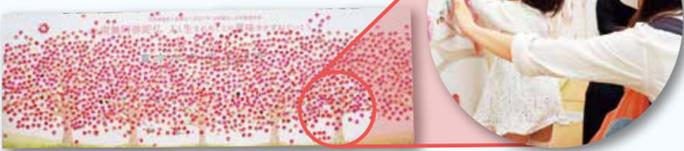
境内南側では、法要期間中、「憩いのひろば」「子どものひろば」が開かれました。「憩いのひろば」では「わたしとつながりにたずねる 仏の願いにうなずく」をテーマに「対話のワークショップ」と「伝統技術のワークショップ」が行われ、参拝者同士の交流が深められました。また「メッセージウォール「ひとこと」」には、参拝された方々のたくさんの思いが寄せられました。



「伝統技術のワークショップ」では、東本願寺を支える職人の協力により、瓦粘土の型押し、ミニ畳づくり、鍔金具づくり、念珠づくりなどが行われ、体験を通して職人の技にふれました。また、「井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアー」も実施。参加者は彫刻の一つひとつを見ながら、明治の先人たちの思いを受けつぐ井波彫刻師の案内を興味深く聞き入っていました。



「子どものひろば」には、東本願寺キャラクター「鸞恩くん」「蓮ちゃん」「あかほんくん」の大型バルーンや「特大さがしもの絵本パネル」を設置。たくさん子どもたちが体いっぱい遊びました。また、法要期間中の毎週土曜日には、紙芝居や絵本の読み聞かせが行われ、子どもも大人も軽やかな語り口での上演を楽しみました。



## 【関係団体の行事】慶讃法要をご縁に、関係団体によるさまざまな催事が行われました。

### 真宗大谷派 大谷婦人会慶讃法要

4月9日、御影堂において真宗大谷派大谷婦人会慶讃法要(音楽法要)が行われ、約900人が参加しました。法要前に執行された大谷給新門刺刀による帰敬式では、多くの子どもたちが受式。子どもたちは音楽法要で供華の役を務めました。

法要と大会にあたり、大谷サチカ会長から日本語・英語・ポルトガル語での挨拶がありました。続いて、池田勇諦さん(真宗大谷派講師・同朋大学名誉教授)を講師に迎え、「『とどけようナンマンダブ』の使命感」を講題に記念法話が行われました。また、「お東さん広場」では、9、10日に全国の会員が製作した手作りアームカバーやコースター、バック等の販売を行う「大谷婦人会手づくり市」(チャリティー)も行われました。



### 真宗大谷派坊守会連盟 慶讃法要記念大会

4月11日、御影堂において真宗大谷派坊守会連盟慶讃法要記念大会が行われ、約800人が参加しました。大会では、山崎龍明さん(武蔵野大学名誉教授)を講師としてお迎えし、「苦難の中で輝く「信」—親鸞聖人と恵信尼さまのお手紙を通して—」を講題に、記念講演がありました。お寺に身を置く坊守自らが、教えに我が身を照らし問い続け、今を生きることを確かめあう大会となりました。



### 真宗大谷派同和関係寺院協議会 慶讃法要記念大会

4月12日、しんらん交流館において、「あなた人間忘れていませんか?—共に、朋に、友に生きよう—」をテーマに、真宗大谷派同和関係寺院協議会慶讃法要記念大会が開催され、約150人が参加しました。大会では谷元昭信さんの記念講演「全国水平社創立100年の今日的意味と部落解放への展望—一部落問題克服にむけた課題と宗教者への期待—」がありました。その後、御影堂門前・お東さん広場にてSHINGO★西成さんとDJ FUKUさんによる記念ライブ「人間を忘れない!」があり、多くの方でにぎわいました。



### 大谷スカウト連合協議会 結成65周年記念「公開講演会」

4月29日、しんらん交流館にて「探しものは何ですか?—これまで・今・これから—」をテーマに、慶讃事業・大谷スカウト連合協議会結成65周年記念事業の一事業として「公開講演会」が行われ、大谷スカウトのリーダーを対象に一般聴講者も含め約180人が参加しました。講師の姜尚中さん(熊本県立劇場館長兼理事長、鎮西学院大学学長)から「リーダーは「半歩前」を行けばよい」をテーマに講演が行われました。今という時代を子どもたちどう生きるのか。また、この時代に求められるリーダーとは何なのかについて話されました。日頃から子どもと接するリーダーにとって大変立派に富んだ講演会となりました。



### 真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会「真宗教誨150周年記念式典」「慶讃記念公開講座」

4月24日25日、しんらん交流館にて「真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会研修会」が開催され、日程中には「真宗教誨150周年記念式典」「慶讃記念公開講座」が行われました。この式典は、真宗大谷派の僧侶が刑事施設での教誨活動を開始して150年の節目を記念し、その歩みと更生保護・矯正教育の現場に願われることを確かめるものとして開催しました。式典後の公開講座では、俳優の宇梶剛士さんから「転んだら、どう起きる?」と題した講演があり、ご自身の生い立ちや少年時代の体験が話されました。講演に続き、藤元雅文さん(大谷大学准教授)司会のもと、宇梶さんと、新川隆教さん(大阪教区西向寺住職・教誨師)の対談が行われ、「つまづいても、歩みだすことのできる社会」を願い、そのために何が大切かについて語りあわれました。



### 公益社団法人 大谷保育協会 親子で集う 子育てセミナー

4月22日、しんらん交流館において、「今一度、自分(あなた)と再会してみませんか?」をテーマに公益社団法人大谷保育協会 親子で集う子育てセミナーが開催され、150人が参加しました。講演会は料理研究家の土井善晴さん、シンポジウムはお笑いコンビクワパタオハラのかくばりえさんの両者にて行われました。セミナーとあわせて、会場隣の大谷保育園において、3歳以上の子どもを対象に「子どものブース 防災ワークショップ」も併催されました。



### 「教行信証」(坂東本)公開講演会

4月13日、しんらん交流館にて「教行信証」(坂東本)公開講演会が開催され、「聞思の人 宗祖親鸞聖人」(坂東本)「教行信証」を通して「」を講題に、三木彰平氏(聖教編纂室特別編纂研究員・大谷大学教授)による講演がありました。三木氏は親鸞聖人の筆跡をたどりながら、聖人の思いを丁寧に読み解き、「文字一つひとつの筆の運びをはじめとして、そのすべてが私たちに示すのは、真の宗によって生涯を尽くされた聖人のお姿である。一人ひとりが親鸞聖人の筆跡にぜひふれてほしい。聖人が大切にされた言葉を読み、目で追うことを通して、聖人が私にとって具体的な存在となるのではないかと話されました。



### 慶讃テーマ館



### 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要記念俳句

慶讃法要をご縁に記念俳句の募集が行われ、全国より495人の方々から親鸞聖人のご生涯をはじめ、現代まで浄土真宗が伝えられてきた歴史や願いへの思いを込めた2、153句の応募がありました。大賞特選、入選作品は、慶讃法要期間中境内高廊下に掲示され、たくさんの方々の参拝者にご覧いただきました。大賞受賞された4人からのコメントをご紹介します。

**大賞受賞者のコメント**

**安原葉撰**  
大阪府 河辺さち子  
慶讃の法会に侍る花衣

**坊城俊樹撰**  
新潟県 蝗一  
歎異抄その果深き虫の闇

**かけがへのなき 命継ぎ葉ゆる**  
石川県 村上秀吾  
稲畑廣太郎撰

**坊守の笑顔 まぶしき白障子**  
神奈川県 陌間みどり  
星野高士撰

思いもよらない受賞に驚きました。元事務総長の安原先生に選んでいただいたこと、そして、慶讃法要という記念すべき時に句を詠む「縁をいただいたことが本当にうれしく、仏恩に感謝しております。この句は浄土真宗の四季になぞらえて作った句です。浄土真宗は京都から近畿、たびた足運を運んでいます。私にとってその都度いろんな景色を見せてくれる大切な場所です。

まさか自分の句が選ばれるとは思いません。驚いています。趣味の写真にキャプションを入れたらと思って始めた俳句。知り合いの初めで今回の募集を知りました。10年前に推進員養成講座を受講し、そのころで学習会へ足を運ぶようになり、そのころ「歎異抄」にふれ、何度読んでも奥深いと感じた思いを込めました。4月には法要に参拝することもできました。投句も、参拝も一人の力だけではできないこと。縁によって生かされていることをあらためて感じています。



南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第32回

# 言葉の力 — 学生との関わりの中で思うこと —

三重教区 三重組 安正寺 山田 恵文

# 聞

## 今月の 法話

数年前から、お寺の掲示板に注目  
が集まるようになった気がします。  
幾度もメディアで取り上げられ、関  
係書籍も出版されています。掲示板  
に掲げられる短い法語に、心をぐっ  
とつかまれる人がそれだけたくさん  
いるということなのでしょう。

近年では、新聞にも掲載され「の  
ぞみはありませんが、ひかりはあり  
ます」という言葉が広く知られるよ  
うになりました。これは心理学者の

河合隼雄さんが、夜遅い時間に新幹  
線に乗ろうとして、駅員さんから言  
われた言葉だそうです。「のぞみ号  
はまだありませんが、ひかり号なら  
まだあります」という意味で駅員さ  
んは言ったのですが、河合さんはそ  
の時の切迫した状況と重なって「希  
望(のぞみ)を失っても、光(ひかり)  
はまだある」という意味で捉えて、  
素晴らしい言葉だと感激したそう  
です。

これがお寺の掲示板に掲げられる  
とどうでしょうか。「ひかり」は阿弥  
陀仏のどんな者も見捨てることが  
ないという摂取不捨の光明に重な  
ります。たとえ人生に希望を失った  
としても、決して阿弥陀仏は見捨て

「仏法は、聴聞にきわまることなり」(蓮如上人御一代記聞書)と教えられているように、  
真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で  
仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

ることがない、このような意味を  
持つて読む者に訴えかける言葉とな  
るでしょう。言葉は、それが発せられ  
た場所や状況や受け手の心理状況  
と結びついて、特別な意味と力を生  
み出すことがあるということをお思  
います。

さて、京都の大谷大学にも入り口  
に伝道掲示板があり、月替わりで法  
語が掲示されています。また、その言  
葉の解説文もホームページなどで公  
開されています。

私は大学の「人間学」という名の  
授業で、この法語に学ぶ授業を行う  
とともに、一つの取り組みを続けてい  
ます。それは、これまでに会ってき  
た言葉の中で、特に心に残っている言  
葉を取り上げて、その理由をよく考  
えて説明するという提出課題を設  
けていることです。

学生たちは真摯にこの課題に取り  
組んでくれます。これまでの人生を  
振り返り言葉を見出す人もいれば、  
これを機会にさまざまな書物を手に  
して選ぶ人もいます。百人いても同  
じ言葉が上がることはほとんどあり  
ません。なぜならば、取り上げた言  
葉には、その人の人生や課題が反映  
しているからなのです。選んだ理由  
を知ると、その言葉が過去の成功体

験や失敗体験、喪失体験などと結び  
ついていたり、現在の自分自身の課  
題と結びついていたりすることが見  
えてきます。ですので、人生経験や  
課題が人それぞれであるように、そ  
れに結びつく言葉の選びも多様にな  
るのでしょう。言葉の選びに学生の  
リアルな姿が見えるかのようです。

そして、この取り組みを通じて、学  
生たちは特別な言葉との出会いに  
よって、自分自身に対する理解を深  
めたり、生き方を学んでいることに  
も気づかれました。

一つ、私自身感銘を受けた事例を  
紹介したいと思います。ある学生は  
次の言葉を紹介してくれました。  
何も学ぶべきところのない人に  
出会ったことはない

これは、かの有名なガリレオ・ガリレ  
イの言葉です。この学生はある友人と  
の関係に悩む中で、この言葉に出会っ  
たそうです。そして、この言葉に導か  
れて、友人との関係をていねいに見つ  
め直していくことよって、友人だけ  
でなく自分自身にも問題点があるこ  
とに気づき、自身の成長につながった  
という体験を語ってくれました。そし  
て、最後に次のように述べています。  
この言葉と出会ってから、どんな  
に価値観が合わなくても、嫌だ

など感じるものが多くても、そ  
のひととの出会いそのものが自分  
にとつての学びであることに気  
づかれました。この先の人生  
でも、この言葉を大切にしてい  
と付き合って、向き合っていくた  
いと思います。

どうでしょうか。私たちは社会生  
活を営む中で、価値観が異なる多様  
な人びとと出会っていかなくてはな  
りません。当然、考えの合う人、気の  
合う人とはばかりだけ出会うというこ  
とにはならないでしょう。そこに人間  
関係を生きたことの難しさがあるの  
ですが、どの出会いも自分にとっての  
学びであるという受け止めが可能に  
なれば、出会いに向けて、一歩踏み出  
す勇氣も生まれるのかもしれないま  
せん。あらゆる人びととの出会いの可  
能性を開く見解だと思いました。

学生たちが選んでくる言葉の多く  
は、仏教、真宗の言葉ではありません  
が、人間の生き方に直接関わる言葉  
であれば、それも法語というべきもの  
でしょう。学生の選ぶ法語と、自分自  
身の生き方を見つめる中から生まれ  
る学生の言葉に、なるほどと教えられ  
ることがしばしばあります。法語を  
巡って生まれるこの学びを多くの人と  
共有していきたいと思っています。

## 東本願寺池の平青少幼年センター50周年記念行事のご案内

1973年、親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗七百五十年記念事業として創  
立されたセンターが50周年を迎えるにあたり、式典・イベントを開催します。  
子どもから大人まで楽しめるイベントがたくさん。ぜひお越しください!

**期 間** 2023年6月24日(土)~25日(日)

**開催内容** 24日:50周年記念式典・ホテル鑑賞の夕べ  
25日:50周年記念マルシェ(飲食、雑貨、遊びなど)

漫才法話「えしんりょう」、ライブ(「マリキータwith ariko」、  
「NIGA Duo Flumen」)、各種展示など

※24日の入場は宗門関係者のみ、25日はどなたでも入場できます(無料)。  
※24日・25日は、センターへの宿泊はできません。

チラシは  
こちらから



**会 場**

東本願寺池の平青少幼年センター  
〒949-2112 新潟県妙高市関川2283

TEL:0255-86-2801

FAX:0255-86-2846

お問い合わせは高田教務所まで

TEL:025-524-3913

# 子どものつどいin東本願寺開催を 記念して打敷が採納

—親鸞聖人八百回御遠忌(2061年)には  
「東本願寺は子ども会活動が活発な教団」であることを願い—



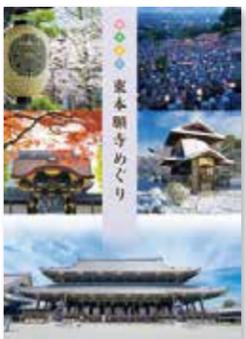
4月7日、慶讃事業「子どものつどいin東本願寺」の開催を記念し、本つどいを企画・運営したスタッフから打敷が採納された。打敷は山吹色。色とりどりの花々とともに東本願寺キャラクターが刺繍されており、5月5日の子どものつどいで荘厳された。今後は毎年11月23日に開催している「子ども

報恩講のつどい」をはじめ、青少幼年とともに勤まる法要や催事の際に荘厳する予定。

数量  
限定

## 『四季折々 東本願寺めぐり』を販売

—東本願寺の四季の移ろいがひとつに—



3月25日より、冊子『四季折々 東本願寺めぐり』(編集・発行:読売新聞大阪本社)の販売を開始している。

本冊子は、『読売新聞』(大阪本社版・夕刊)にて2022年4月から2023年2月まで計20回連載されていた写真や記事を基に編集・発行されたもの。東本願寺の境内をはじめ、報恩講や春の法要、得度などの年中行事のほか、飛地境内地の涉成園、親鸞聖人のお墓所である大谷祖廟、また東本願寺を支える職人などの様子を写真と共に紹介している。参拝記念やお土産としてぜひご購入いただきたい。

B5判・48頁・オールカラー・660円(税込)  
お買い求めは東本願寺出版(TEL:075-371-9189)まで

## ご案内

詳しくは、真宗大谷派(東本願寺)ホームページ「法要・法話のご案内」まで  
もしくは、右のQRコードを読みこんでください。



真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上

- ◇ 晨朝(おあさじ)【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
- ◇ 晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～
- ◇ 真宗本廟法話 【場所】視聴覚ホール・大寝殿  
【時間】通常10時10分～/13時10分～  
速夜日(12・27日)13時10分～ 御命日(28日)9時30分～  
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
- ◇ 参拝接待所ギャラリー 【時間】9時～16時  
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中  
「非戦と平等の源流をたずねて」 開催中～7月26日

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

東本願寺 検索

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199番地

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。  
開館時間/平日 9時～18時 土日祝 9時～17時 休館日/毎週火曜日

- ◇ 6月の定例法話【場所】1階 すみれの間  
【時間】毎日14時～(6月12日は10時～)  
※毎週火曜日は休会、その他都合により休会する場合があります。
- ◇ 6月の東本願寺日曜講演  
【場所】2階 大谷ホール 【時間】9時30分～11時  
【講師】◆6月4日…休会◆11日…休会◆18日…休会  
◆25日…大窪康充(金沢教区浄土寺住職)

◇ 交流ギャラリー(1階)  
6月中旬まで休止

◇ しんらん交流館 Tera School【場所】1階 すみれの間  
【日時】毎週月・金曜日 18時30分～20時30分  
【対象】小学3年生～高校3年生 ※幼児教室もあります。 http://www.teraschool.jp

東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280  
【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

浄土真宗ドットインフォ

検索

# 「真宗本廟(東本願寺) 彫刻ガイドマップ」発行

—境内の彫刻の魅力を伝える  
初のリーフレット—



慶讃法要期間中の「井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアー」実施に合わせ、東本願寺の彫刻の見どころを紹介するリーフレットを発行した。

現在の東本願寺の彫刻は、彫刻主任を務めた岩倉理八氏(富山県南砺市井波出身)をはじめ、井波・尾張・京都を中心とする彫刻師による明治期のもの。リーフレットでは、両堂の内陣と外陣の間にある唐狭間(欄間)の迫力満点の彫刻をはじめ、臺股や手挟、木鼻といった各建築部位に彫ら

れた繊細な彫刻、普段は鳩避けの網に隠れて見落としがちな御影堂門に施された2匹の龍や、草木の浮彫が施された非常に珍しい虹梁などを井波彫刻協同組合の協力を得て解説している。

また、東本願寺と井波別院瑞泉寺の彫刻関連年表も掲載。江戸時代に東本願寺の御用彫刻師に弟子入りしたことからはじまった井波彫刻は、明治期の東本願寺再建事業で全国の彫刻師と腕を競い合ったことでさらに洗練され、その技が瑞泉寺の太子堂に結実した歴史が概観できる。

※「東本願寺の彫刻ガイドマップ」のダウンロードは [こちら](#)  
(なお、「井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアー」の動画も後日、同ページからご覧いただけます)



## 石川県能登地方を震源とする地震で被害に遭われました皆さまに 心よりお見舞い申し上げます 真宗大谷派(東本願寺)

5月5日に石川県能登地方を震源とする最大震度6強の地震が発生しました。同地域では、昨年6月の地震でも被災されており、今回も能登教区(珠洲市)を中心に被害がありました。最新の被害状況などは、宗派ホームページをご覧ください。

また、下記の口座にて救援金を募っております。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

【救援金口座】郵便振替口座番号00920-3-203053

【加入者名】真宗大谷派 ※通信欄に「能登地震」とご記載ください

## 読者のお便り



気持ちのよい一日  
—慶讃法要にお参りして—

愛知県西尾市 織田恵美子(73歳)

母の三回忌を終え、3月末に夫と東本願寺へ収骨に行きました。そして、桜が綺麗に咲く中、慶讃法要という素晴らしい法要と出あうことができました。

ご法話を聞き、話される言葉がとてやさしかったことが心に残っています。今まで難しいと感じていた法話のイメージが変わりました。また、東本願寺前のバスの駐車スペースや、収骨の受付、お堂の中などではスタッフの方々が案内をしてくださっていましたが、その声掛けもとても丁寧でした。特に、お堂内の案内係の方が腰を落として話され、綺麗な所作だったと印象に残っています。大勢の方々との優しい触れ合いにとても気持ちよくなりました。また京都へお参りに行けるように、体に気をつけたいと思っております。

## 宛先

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版「同朋新聞編集係」  
Eメール shuppan@higashihonganji.or.jp  
FAX 075-371-9211  
TEL 600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版「同朋新聞編集係」  
紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただきます。

慶讃法要ご参拝の思い出を『同朋新聞』に残しませんか?  
ご参拝の感想、写真などをぜひお寄せください。お待ちしております!

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上  
東本願寺出版『同朋新聞』参拝の思い出係  
メール higashihonganjishuppan@gmail.com

応募は  
コチラ



※住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。  
※掲載する際は、文章を添削・抜粋することがあります。  
※お送りいただいた写真は返却できません。ご了承ください。

お待ち  
しています!!



入館状況については、研修部まで  
お電話でお問い合わせください。

# 2023年 真宗本廟奉仕のご案内

真宗本廟奉仕を機に、  
ぜひ「帰敬式」を受式ください。

## ◆真宗本廟中学生・高校生奉仕団

2泊のみ 8月7日(月)~9日(水)

全国から集まった同世代  
の人と寝食を共にしながら、  
人間関係や自分自身  
についてあらためて考える  
奉仕団です。



対象

中学1年生から  
高校3年生まで

申込締切 6月28日(水)

参加費

中学生9,000円/高校生13,500円、  
米2kg(1升4合)または米代1,300円

## ◆真宗本廟おみがき奉仕団

2泊  
11月1日(水)~3日(金)

1泊  
11月1日(水)~2日(木)

真宗本廟報恩講を迎えるにあたって、阿弥陀  
堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心と  
した奉仕団です。

申込締切 9月22日(金)

参加費

〈2泊3日〉18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円  
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円

※上記は大人(15歳以上)の場合です。

## ◆真宗本廟報恩講奉仕団

2泊 11月20日(月)~22日(水)	1泊 11月20日(月)~21日(火)
11月24日(金)~26日(日)	11月24日(金)~25日(土)
11月27日(月)~29日(水)	11月27日(月)~28日(火)

真宗本廟報恩講の法要参拝を日程の中心とした奉  
仕団です。

※満館になっている場合がありますので研修部までお  
電話でお問合せください。  
(電話受付は各日9時から17時まで)

【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

- ・受け入れ状況などの情報は、同朋会館ホームページでご覧いただけます。
- ・ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。
- ・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



真宗本廟奉仕  
参加者の声を  
ご紹介!

お内仏の給仕の仕方や作法など  
ていねいに教えていただき、  
真宗門徒として背筋が  
伸びたように感じます。  
(70代 男性)

今月号の『同朋新聞』を読んで、

## プレゼント付 クロスワードパズルを完成させよう!

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、  
クロスワードパズルを完成させましょう!  
6月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

### タテのカギ

- 「子ども〇〇〇〇in東本願寺」開催を記念して、  
打敷が採納されました。(11面)
- 『聞一今月の法話』今月のタイトルは、「言葉の〇〇ら  
一学生との関わりの中で思うこと」です。(10面)
- 『読者のお便り』今月のタイトルは、「〇〇〇〇〇〇い一日  
一慶讃法要にお参りして」です。(11面)
- 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要は、  
4月8日に第一期の「〇〇〇〇」を迎えました。(2・3面)
- 『現在を生きる』今月は、九州教区の「石松〇〇〇ろ」と  
梅子さんを紹介しています。(4面)
- 慶讃法要をご縁に「〇〇〇俳句」の募集が行われ、  
全国より2,153句の応募がありました。(8面)
- 『親鸞聖人にであう』親鸞聖人は35歳の時、  
「愚禿〇〇〇親鸞」と名のられたとも言われています。(5面)
- 『親鸞聖人にであう』今月のタイトルは、「深」一己の〇〇に  
深く確かめる」です。(5面)

### ヨコのカギ

- 小川一乗氏は、「生かされるい〇〇尊し」という題で  
法話されました。(2・3面)
- 「延〇〇〇〇〇〇」氏は、「光り輝く仏さまの世界に帰る」  
という題で法話されました。(2・3面)
- 4月10日から29日まで南座において、  
慶讃法要記念「若〇〇〇〇〇〇」が上演されました。(7面)
- 渉成園では庭園がライトアップされるなか、  
閨風亭において4月9日から14日まで「月夜し〇〇」が  
開催されました。(7面)
- お東さん広場では、期間中の平日は日替わりで  
「キッ〇〇〇ー」が登場。  
土日はマルシェも開催されました。(7面)
- 憩いのひろばでは、「対話のワー〇〇ヨップ」と  
伝統技術のワークショップが開催されました。(9面)

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

答え

A	B	C	D
---	---	---	---

4月号のクロスワードパズルの答えは、  
は  
る  
か  
ぜ

読者のこえ

(3月号を  
読んで)

- ◆『御同朋・御同行からの問いかけ』の記事を題材に座談をしました。これからも「是旃陀羅」の課題を  
提起し続けていたがたいです。(60代男性)
- ◆ぶっきょうの言葉はむずかしいです。クロスワードは楽しかったです。(8歳女性)

## チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を  
添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは6月30日(金) (当日消印有効)です。

メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞6月号クロスワード応募」と入力のうえ  
higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、  
それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。  
◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

編集室  
だより

◇3月25日から4月29日まで慶讃法要が勤まり、さまざまな催しがありました  
(6-9面)。私は法要の様子を記録するために、境内各所で取材・撮影をしていま  
した。五色幕で彩られた両堂や、国内外から参拝に来られた大勢の方々にぎわ  
いを写真におさめながら、これから何十年何百年先、この法要を経験した人がい  
なくなっても、写真を見た後の人が、私たちが大切にしたい今という時に思いを馳

せてくれるのだらうと思いました。◇法要のご法話で、「人は必ず死んでいなくな  
てはならない。その時に、財産や地位など何かを持っていくことはできない。でも、  
願いや祈りや生きた意味など、何かを残していくことはできる。それが人間の力では  
ないでしょうか」というお話がありました。先の人びとが残してくれたものの、  
そして私が残したい願いは何か、これからも考えていきたいと思えます。(古賀)

真鍮製仏具向け洗剤

## 《みぞきれいピカっと》

### 目詰まりキレイに! 泡沫で溝や彫刻細部の汚れ除去!



洗剤の改良により、より強い効果が  
発揮できるようになりました。特に石  
灰化した研磨剤の目詰まりには強い威  
力を発揮します。是非、報恩講等ご法  
要の前のお磨きにご利用ください。

50ml入(スプレー).....1,760円  
200ml入(スプレー).....5,830円  
詰め替え用2000ml入.....41,800円

※価格は税込です。



使用前



使用后



創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具  
株式会社 若林佛具製作所

文化財修理 社寺内装・外装工事



株式会社 若林工芸舎

合掌の心と共に194年 お仏壇・仏具はやっぱり京都!

◆お仏壇・仏具の事なら何でも  
お気軽にご相談ください。

☎0120-37-8585

●ホームページもぜひご覧ください <https://www.wakabayashi.co.jp/>

京都本店 〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入  
築地店 / 札幌店 / 仙台営業所 / 福岡営業所

寺院用オンラインショップをオープンしました!  
wakabayashi-jiin.com 若林仏具 オンライン

<https://www.wakabayashi.co.jp/>